



ADVANCED
MEDICAL
SYSTEMS



生物物理学研究所レポート：

健康に害を及ぼすエレクトロスモッグ

メディセンドはエレクトロスモッグ（電磁波ストレス）からあなたを守ります！

メディセンドは、あなたにとって重要な、私たちの体に本来備わっている「原始から存在する自然なリズム（＝生物学的標準）」が備わっています。シューマン共鳴や地磁気の地球本来の自然な周波数の模擬的に合わせた特定の周波数を発生させることで、体にとって健康的な電磁波環境を作ります。メディセンドは、家庭、職場、余暇時間において起こりうる電磁波汚染から、あなたを個人的にガードすることができるのです。信じられませんか？あなたの携帯電話を使って、テストしてみてください。きっと驚かれることでしょう（「携帯電話テストの手順と実施」を参照）。

数々の科学的研究が証明しているように、エレクトロスモッグ（人工的な電磁波によるストレス環境）は私たちの環境、ひいては体を徐々に汚染していく恐れがあります。目に見えない継続的な環境汚染であるエレクトロスモッグは、家庭内や職場だけにとどまりません。日常生活でもレジャー先でも、エレクトロスモッグは私たちの身体の「生体的電気信号」のバランスを乱すのです。その結果、私たちの繊細な生体システムに強い負荷を与え、体調不良を引き起こすのです。

家電製品やコンピューター、無線通信機器、高圧線、屋上の送電線、さらには AC 電源付きの目覚まし時計や調光機能付き LED 照明器具の近くでは、電磁波の強さが通常の数百万倍にもなることがあります。携帯電話やコードレス電話機、省エネ型の低電圧照明、ベビーモニターなども同様に、体内の「バイオフィロー（生体エネルギーの流れ）」に影響を与え、混乱させる可能性があります。加えて、夜間の深い眠りの段階では、私たちの体は電磁波の干渉に対して特に敏感になります。枕元から 30～50cm の距離にある時計付きラジオが発する電磁波の影響は、場合によっては高圧送電線に匹敵するほどになることがあります。特に脳や神経系にとっては、慢性的なストレスの要因にもなりかねません。

電磁的プロセスは、すべての生物にとって重要な役割を担っています。私たちの体内では、「バイオフィロー（生体エネルギーの流れ）」が電磁的にコントロール・調整されており、細胞内や脳細胞、筋肉、臓器間の情報伝達も、微細な電気信号（電氣的インパルス）によって行われています。もし、このバイオフィローが外部からの影響で妨げられると、体内で誤った信号が発生し、慢性化すると深刻な健康被害を引き起こす可能性があるのです。

エレクトロスモッグの影響は、偏頭痛、睡眠障害、集中力障害、心血管障害、不整脈、筋肉の緊張、神経痛、アレルギー、慢性的な疲労感、無気力などがあります。

メディセンドを使えば、エレクトロスモッグから身を守ることができます！

筋肉機能検査（携帯電話テスト）は、このことを顕著に証明しています！

携帯電話テストを行ってみましょう！

携帯電話テストとは？

このテストは「アプライドキネシオロジー（応用キネシオロジー）」という手法を使ったものです。専門知識がなくても、自宅で簡単に試すことができ、体が電磁波によってどのような影響を受けるかを確認できます。興味がある方は、ジョン・ダイヤモンド博士の著書『身体は嘘をつかない』を読むと、より詳しく理解できます（以下の手順もこの本から引用されています）。

テストの目的

このテストでは、携帯電話などが身体の筋肉の動きに影響を与えるかどうかを調べます。具体的には、腕の筋力の変化をチェックします。

テストの準備

- **用意するもの**：電源の入った携帯電話
- **サポーター**：家族や友人など、もう1人必要です
- **注意点**：テスト中はふざけたり笑ったりせず、真剣に行ってください

テストのやり方（2回繰り返します）

【ステップ1】テストを受ける人の準備姿勢

テストを受ける人（被験者）は立った姿勢をとり、右腕は脱力して体の横に垂らします。左腕は肩のよりもやや上の高さで、まっすぐ横に伸ばしておきます。

【ステップ2】サポーターの準備姿勢

サポーターは被験者の正面に立ち、左手で被験者の右肩を支え、右手は左腕の手首のすぐ上に軽く置きます。

【ステップ3】動作の指示

サポーターは被験者に、「これからあなたの腕を下に押ししますので、力いっぱい押し返してください」と伝えます。

【ステップ4】筋力のチェック

力を入れすぎず、かつしっかりとした圧力で、腕を下方向に素早く押します。押すのは長くても3秒以内です。筋肉を疲労させることではなく、**最初の反応を見る**ことが目的です。

→この時点で、被験者が腕の高さを維持できるかを確認します。多くの場合、しっかり耐えることができます。

【2回目】携帯電話を使ったテスト

次に、被験者の垂らした方の**右手に電源の入った携帯電話を持たせた状態**で、同じ手順（ステップ1~4）を繰り返します。

→この時、多くの場合、**腕の力が弱まり、押されるとすぐに下がってしまう現象**が見られます。

なぜこうなるのか？

この反応は、携帯電話が発する電磁波や「エレクトロスモッグ（人工的な電磁環境）」の影響によって、**筋肉へのエネルギー供給が一時的に乱される**ためと考えられています。

特にテストに使う三角筋（肩の筋肉）は、動きがわかりやすいため、反応の違いを確認しやすい部位です。

補足

このテストは医学的診断を目的としたものではなく、「体が環境要因にどう反応するか」を感覚的に体験するための方法です。応用キネシオロジーに興味のある方は、関連書籍や専門家の解説も併せて参考にしてください。

もう一度テストを行ってみましょう！

～被験者の体をメディセンドで中和する～

被験者に再び電源の入った携帯電話を持たせた状態で、**メディセンドのスイッチをプログラム「3」（1.2Hz）に設定し**、右手の体の横に添えてください。

そして上記と同じ1~4の手順で再度テストを実施してください。

被験者は抵抗できましたか？

ほとんどの場合は抵抗できるようになるでしょう！

もしもうまくいかなかった場合は、メディセルのスイッチを"4"(7.8Hz)に設定して、もう一度試してみてください。

実際に何が起こったのか？

テストされた人の身体の反応システムは、携帯電話の電磁波がストレスとなっていることを示しています。

その一方で、身体は、メディセンドからのポジティブな波動スペクトルを即座に認識し、いわゆる "生物学的正常値" になることで、携帯電話の悪影響から、身体のエネルギーの流れを回復させることができます。

体内のリズムは**メディセンドによって**中和され、被検者の身体はエレクトロスモッグによる汚染から効果的に「解放」されるのです。

テストにおける三角筋は、身体のエネルギー供給の指標である。

つまり、「アプライド・キネシオロジー」テストを使えば、身体に過負荷をかける他の「もの」をテストすることもできる。

例えば、次のような動作をさせてテストする。

筋肉の "ロック" (筋肉を固定) を感知(できなければ、その筋肉はなんらかの影響を受けてエネルギーの流れが滞っていることを示し、その違いにすぐに気づくはず)です。

その他のテスト例

- 上白糖または角砂糖を手を持つ。
- 不快な状況を思い浮かべる
- タバコを手を持つ
- 酒を飲む
- などなど

環境（有害物質、騒音、人工的な食品、合成物質、携帯電話やコンピューターなど）、ライフスタイル、個人の習慣や特性、ストレスへの対処能力、対人関係など、多くの要因が私たちの身体のエネルギーに強い影響を与えています

信じられませんか？

ぜひご自身で試してみてください！